

I 実践

1 研究主題「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることのできる生徒の育成」

(1) 主題設定の理由

本校では、「自らを高め 力のある人間となれ 一自ら律し 自らを鍛える」を教育目標とし、その目標を具体化するために、「確かな学力の育成」「健康安全・体力づくり」そして、人権教育にもつながる「思いやり教育の推進」の三つの柱が立てられている。また、教育目標達成のための方針として、基本方針掲げられているが、その方針の中の一つにも「命を大切にし、豊かな心や人権意識を育む教育の推進」とある。この基本方針を受け、命を大切にし、豊かな心を育むための一歩として、まず、自分と他人を大切に思い、認めることのできる生徒の育成が必要ではないかと考え、研究主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 全校参加の人権教育の取り組み
- イ 道徳の授業を通して人権の意識を高める

2 実践内容

(1) 全校参加での人権教育の実施

ア いじめ防止フォーラムの実施

本校では互いを尊重し、思いやりのある行動がとれる態度を育てること、そして、「いじめ」について生徒一人一人が考えることをねらいとし、生徒会が発案・構想・進行を担う「いじめ防止フォーラム」例年行っている。平成24年度には「いじめ防止のための丘中宣言」を採択した。今年度は生徒会が行った丘中宣言の周知アンケートで、1学年の周知が低いことを考慮し、改めて丘中宣言の生徒理解を求めた活動を行う予定である。



〈いじめ防止フォーラムの様子〉

【丘中宣言】

- 1 いじめは絶対に許さないという雰囲気を作ります。
- 2 いじめを見て見ぬふりをしないという強い意志をもちます。
- 3 痛みの感じ方は人により目盛りが違うという意志を持ち、自分中心の考え方を改めます
- 4 人はみんな平等で、一人一人が大切な存在だと感じる心を持ちます。

いじめ防止フォーラムの後には人権に対する意識をより高めるため、図書委員会で1月から3月に実施予定である朗読会に人権に関する作品を取り入れ、人権について考える機会を増やす予定である。

イ いじめ撲滅標語

一人一人がいじめについて考える時間を持つことが大切と考え生徒会がいじめ撲滅のための標語を募集した。各学級でいじめをなくすためには、どうすれば良いか話し合った後それぞれの考えを標語に表した。その中から、心に響いたものを選出し、いじめ防止フォーラムで表彰を行っている。

《生徒のいじめ撲滅標語例》

- 心の傷 消しても消えない 傷跡が
- 思いやろう 相手の心に 寄り添って
- 死ねばいい その一文が 重い罪
- 見直そう いじめじゃないの？ その行為
- 携帯の うすい画面に 厚い闇

ウ 毎月実施のいじめアンケート

毎月学年統一で 20 分間の時間をとり、無記名式のアンケートを実施した。アンケートは集計し、毎月の生徒の状況を学校全体で把握した。

(2) 道徳の授業を通して人権の意識を高める

ア 学年での取り組み

教育目標にも掲げられている「命の大切さ」を考えるために、人権を題材にした道徳の授業を行った。道徳の授業を大切にし、学年・学級でよりよい授業づくりに努めることによって、生徒たちに人権尊重の意識が育まれると考える。また、平成 31 年の道徳の教科化に向けて個々の意見や考えを視覚化させるような教具「心情カード」の作成を行った。それによって、生徒の一人一人考えを尊重する成果が得られた。

【生徒の感想】

- ・今日の授業で、命とは一番大事なものと改めてわかりました。何気ない毎日がキセキなんだと思いました。
- ・一つの自分勝手な行動で、大勢の人々の命がなくなると思うとすごくこわくなります。人の言うこと素直に聞く「判断力」も大切だと思いました。命は、大切にしなければいけないことを改めて感じました。
- ・「命は簡単になくならない」じゃなくて、「命は簡単になくなるものだ」と分かりました。



〈心情カード〉

イ 学級での取り組み

道徳の授業の最後に授業で感じたこと、これからどうしていきたいかなどを書かせている。書かせたものを教室の後ろに「道徳コーナー」として掲示し、そのことをこれから行動に移せるように各自のプリントに担任が励ましの助言を書き入れた。



〈道徳コーナー〉

3 成果

「いじめ防止フォーラムの実施」や「いじめ撲滅の標語作成」も今年度で 4 年目となった。その取り組みも当初は教師側からの提案や支援もあったが、年を重ね、生徒が自分達で「いじめ」について真剣に考え、行動するということができるようになった。生徒会が計画・運営を行うことによって、生徒達全体のいじめに対する意識が向上し、現在の子ども達の目線での、いじめ撲滅の活動ができた。また、毎月アンケートを実施することにより、生徒の状況を把握できると共に、いじめは絶対に許さないという学校の方針を生徒達に示し、生徒達へのいじめの抑止力にもなることができた。学年道徳でも命の大切さや相手を思いやる大切さを学ぶとともに、自分の意見を形に表し認めてもらうことで自己肯定感を得ることができた。

II 今後の課題

「いじめ防止フォーラム」を通して人権に対する意識を高めることができた。今後はその意識を持ち続けながら、自分の生活で実践できるかが課題となっている。また、例年「いじめ防止フォーラム」は後期生徒会発足後の 2 学期末もしくは 3 学期始めに行われているため、1 年生に「丘中宣言」が周知されていないということも課題である。「いじめは絶対に許さないという雰囲気を作ります」という「丘中宣言」の第一項にあるとおり、常に生徒・学校全体でいじめを許さない環境をつくっていきたい。